



全日本BMXエリートクラス予選

シクリスムエコーNo.122 2005年9月号



第 21 回全日本 BMX 選手権大会…………… 2



2005 年 MTB アジア選手権大会 …………… 3



第 13 回 三笠宮杯 ツールド・とうほく …………… 4



2005 年世界ジュニア自転車競技選手権大会…………… 6

ツール・ド・ラピティビ 2005…………… 7

第 40 回全国都道府県対抗自転車競技大会 …………… 9

第 39 回全日本実業団対抗サイクルロードレース大会 10



第 22 回シマノ鈴鹿国際ロードレース大会 …………… 12



高地トレーニング医科学サポート …………… 13

2005 年 UCI ロード世界選手権 日本代表選手団 …… 13

第 61 回全日本大学対抗選手権自転車競技大会 …… 14



競技大会結果 …………… 15

ジュニア・ロード・イタリア遠征 日本代表選手団 …… 16

インフォメーション コーナー …………… 16

連盟の動き …………… 16



第21回
全日本BMX選手権大会

スーパークラス決勝、No.3が優勝の黒田



世界選で活躍した選手の表彰

[競技結果]

第21回全日本BMX選手権大会
(2005/8/21 新潟・上越金谷山)

スーパークラス

- 1 黒田 淳 神奈川
- 2 三浦 進 大阪
- 3 栗瀬 裕太 大阪
- 4 西岡 拓朗 広島
- 5 塚原 睦人 愛知
- 6 土井 昭 大阪
- 7 飯端 英洋 大阪
- 8 逸崎 智也 大阪



スーパークラス決勝、2位の三浦(左)と1位の黒田



2005年MTBアジア選手権大会



第11回MTBアジア選手権大会は、8月18日から21日インドネシアのバリ島の南端Pecatúで開催された。MTBアジア選手権では、会場、コースレイアウト、スケジュールなどの情報が遅く、少なく、なお且つ、現地での変更が多い。特にコースレイアウトは、事前の資料と全く異なることが多く、現地対応をいかにするかが問題となってくる。

懸念した通り、DHコースは距離1200mで、標高差80m、約3分、時速25kmしか出ない特殊なコース。スタート直後から、3mに近い強烈なドロップオフが4箇所設けられているのだが、飛ぶというのではなく落ちるといふ代物で、コースは、砂に覆われ、一本しかないキャンパー路面、緩やかな登りと、平面の折り返し。ひたすら漕ぐ、と、落ちるといふ難コースだ。予選ではトップを独占するも、5時間後の決勝では、安達はラインアウトから、登りを押してのReスタートになり3位に沈む。丸山は、固い珊瑚、溶岩質の岩でバンク。2名とも、リベンジを誓っていた。

末政は、昨年世界選手権2位の実力を遺憾なく発揮、圧倒的なバランス走行で、2位に17秒以上の差をつけて優勝。

XCコースも、事前の資料とは大きく異なり、海岸線に面した1周6.8km:メーターでは6km、標高差はあまり無いものの、硬い珊瑚、溶岩質の岩板、深いドロップオフにサンド、そして風に対応しなくてはならない。今大会には、沈黙のライバル、中国がフルメンバーで参戦。オリンピックに向けて、カザフスタン、フィリピン、タイも強化が進んでいる。女子は5周回、男子は7周回で争われることとなった。

女子は、スタートから4名の中国選手が、最速ラップタイムが男子と変わらないスピードで逃げが決まる。片山、深井も追うが、5位と7位でフィニッシュ。

日本男子チームは、中国に臆することなく、スタートから逃げの体制をとる。鈴木がパンクでリタイヤした後も、辻浦、色川が逃げ続け、山本幸平が後続を抑えるが、中国と、カザフスタン:ヤコブレフに追いつかれてしまう。しかし、色川が最後まで2位をキープした。

中国女子チームは、中国には在住せず、全てをヨーロッパで強化と競技参戦に費やし、北京オリンピックの勝利を目指している。中国男子は、強化カテゴリーAのロード選手を中心にチームを組み立てるなど強化に必死だ。

日本チームは、中国を始め、強化の進む各国を相手に一歩も引かず、“逃げる、か、追う”に徹したレースを行なった。ナショナルチームとして、北京に向けた今後の強化の目標、内容が、しっかりと定まったと言える。(山本 康雄)

2005年MTBアジア選手権大会/XC・DH
(2005/8/19-21 インドネシア・バリ島)

DH WOMEN

1 末政 実緒	JPN	3:11.238
2 SUSEANTI RISA	INA	3:28.582
3 YASID KUSUMAWATI	INA	3:35.936



DH MEN

1 SETIAWAN SUGIANTOINA		2:43.492
2 SUSANTO PRIYO	INA	2:46.410
3 安達 靖	JPN	2:46.760
16 丸山 弘起	JPN	3:18.963

XC WOMEN

1 REN CHENGYUAN	CHN	1:38.28.121
2 GAO XIAONING	CHN	1:40.19.268
3 WANG JINGJING	CHN	1:41.19.150
5 片山 梨絵	JPN	1:51.43.444
7 深井 薫	JPN	1:57.27.335

XC MEN

1 JIANG XUELI	CHN	2:11.19.444
2 色川 浩樹	JPN	2:11.56.596
3 YEVGENY YAKOLEV	KAZ	2:12.19.724
4 辻浦 圭一	JPN	2:12.40.440
5 山本 幸平	JPN	2:13.07.564
鈴木 雷太	JPN	DNF



第13回 三笠宮杯 ツール・ド・とうほく



高校男子第3ステージのメイン集団
中央が総合優勝の鶴川



第3ステージ

8月12～14日、東北の秋田、岩手、宮城の3県にわたって、第13回三笠宮杯 ツール・ド・とうほくが開催された。

第1ステージが個人TT、第2・第3ステージがマススタートとなる。

不安定な天候の中、岩手ステージの朝にはバケツを引繰り返した様な土砂降りになったが、その後徐々に回復し、予定通りの距離を争った。

高校男子は、初日TTで、四国高体連選抜の篠原、鶴川の2選手が好タイムを出しそれぞれ1・2位となった。その後、鶴川が第2・3ステージ共6位となり、ステージ優勝無く、個人総合優勝となった。

また女子はJCFチームの森本が3ステージ完全優勝をはたし、個人総合優勝をものにした。



高校男子第3ステージ優勝の伊藤

[競技結果]

第13回三笠宮杯 ツール・ド・とうほく
(2005/8/12-14 秋田、岩手、宮城)

高校男子

第1ステージ (秋田・個人TT 20.0km)

- 1 篠原 力也 香川 四国高体連 28:27.92
- 2 鶴川 大輝 香川 四国高体連 28:30.43
- 3 武田 和也 奈良 近畿高体連 29:02.88
- 4 田崎 裕也 福島 学法石川高 29:05.95
- 5 我妻 敏 福島 学法石川高 29:12.86
- 6 伊藤 雅和 神奈川 関東高体連 29:21.26
- 7 伊丹 健治 群馬 関東高体連 29:23.84
- 8 菅原 直人 岩手 岩手高体連 29:30.06
- 9 福田 真平 神奈川 関東高体連 29:38.64
- 10 田口 守 秋田 秋田高体連 29:46.59

第2ステージ (岩手・84.7km)

- 1 大久保光次 宮城 宮城高体連 2:29:43
- 2 福田 真平 神奈川 関東高体連 2:29:43
- 3 板橋 良 宮城 宮城高体連 2:29:43
- 4 中村 敬 青森 青森高体連 2:29:43
- 5 湯浅 徹 千葉 関東高体連 2:29:43
- 6 鶴川 大輝 香川 四国高体連 2:29:43
- 7 中田 弘明 岩手 岩手高体連 2:29:43
- 8 田崎 裕也 福島 学法石川高 2:29:43
- 9 伊藤 雅和 神奈川 関東高体連 2:29:43
- 10 我妻 敏 福島 学法石川高 2:29:49

第3ステージ (宮城・108.5km)

- 1 伊藤 雅和 神奈川 関東高体連 3:21:28
- 2 竹之内 悠 京都 近畿高体連 3:21:30
- 3 大久保光次 宮城 宮城高体連 3:21:52
- 4 福田 真平 神奈川 関東高体連 3:21:52
- 5 伊丹 健治 群馬 関東高体連 3:21:53
- 6 鶴川 大輝 香川 四国高体連 3:21:55
- 7 湯浅 徹 千葉 関東高体連 3:23:54
- 8 寺垣慎太郎 富山 氷見高校 3:24:12
- 9 森 悠哉 京都 近畿高体連 3:24:23
- 10 金子 友也 東京 関東高体連 3:24:42



女子第3ステージのメイン集団



女子第3ステージ
途中逃げる
小山(左)と萩原



女子第2ステージのゴール森本

個人総合成績

- 1 鶴川 大輝 香川 四国高体連 6:20:08
- 2 伊藤 雅和 神奈川 関東高体連 6:20:22
- 3 竹之内 悠 京都 近畿高体連 6:21:04
- 4 福田 真平 神奈川 関東高体連 6:21:07
- 5 伊丹 健治 群馬 関東高体連 6:21:20
- 6 大久保光次 宮城 宮城高体連 6:22:08
- 7 湯浅 徹 千葉 関東高体連 6:23:33
- 8 田崎 裕也 福島 学法石川高 6:24:00
- 9 我妻 敏 福島 学法石川高 6:24:14
- 10 寺垣慎太郎 富山 氷見高校 6:24:22

団体総合成績

- 1 関東高体連選抜 19:02:28
- 2 近畿高体連選抜 19:09:52
- 3 学校法人石川高校 19:14:55

女子

第1ステージ(秋田・個人TT 10.0km)

- 1 森本 朱美 鳥取 JCFチーム 14:10.60
- 2 村中恵美子 東京 GS特選クラブ 14:24.04
- 3 西 加南子 千葉 ノコシロース 14:42.95
- 4 真下 正美 神奈川 JCFチーム 14:49.88
- 5 萩原麻由子 群馬 JCFチーム 15:03.58
- 6 宮崎 杏菜 大分 JCFチーム 15:04.06
- 7 豊岡 英子 広島 ノコシロース 15:12.55
- 8 高倉 実希 岩手 学連選抜 15:19.76
- 9 井上 玲美 東京 高体連選抜 15:33.77
- 10 小淵 千恵 群馬 学連選抜 15:38.67

第2ステージ(岩手・58.5km)

- 1 森本 朱美 鳥取 JCFチーム 1:58:17
- 2 西 加南子 千葉 ノコシロース 1:58:19
- 3 小山美貴子 埼玉 GS特選クラブ 1:58:21
- 4 萩原麻由子 群馬 JCFチーム 1:58:23
- 5 村中恵美子 東京 GS特選クラブ 1:58:24
- 6 真下 正美 神奈川 JCFチーム 1:58:26
- 7 豊岡 英子 広島 ノコシロース 1:58:26
- 8 井上 玲美 東京 高体連選抜 1:58:26
- 9 酒井 真清 大阪 VOLCA-CCM1:58:28
- 10 宮崎 杏菜 大分 JCFチーム 1:58:28

第3ステージ(宮城・78.5km)

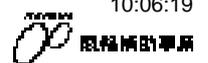
- 1 森本 朱美 鳥取 JCFチーム 2:49:12
- 2 西 加南子 千葉 ノコシロース 2:49:12
- 3 村中恵美子 東京 GS特選クラブ 2:49:12
- 4 真下 正美 神奈川 JCFチーム 2:49:12
- 5 萩原麻由子 群馬 JCFチーム 2:49:16
- 6 小山美貴子 埼玉 GS特選クラブ 2:49:19
- 7 酒井 真清 大阪 VOLCA-CCM2:49:19
- 8 坂田 佳子 兵庫 VOLCA-CCM2:50:22
- 9 豊岡 英子 広島 ノコシロース 2:50:41
- 10 井上 玲美 東京 高体連選抜 2:50:58

個人総合成績

- 1 森本 朱美 鳥取 JCFチーム 5:01:17
- 2 村中恵美子 東京 GS特選クラブ 5:01:55
- 3 西 加南子 千葉 ノコシロース 5:02:00
- 4 真下 正美 神奈川 JCFチーム 5:02:27
- 5 萩原麻由子 群馬 JCFチーム 5:02:36
- 6 小山美貴子 埼玉 GS特選クラブ 5:03:33
- 7 酒井 真清 大阪 VOLCA-CCM5:03:34
- 8 豊岡 英子 広島 ノコシロース 5:04:19
- 9 宮崎 杏菜 大分 JCFチーム 5:04:50
- 10 井上 玲美 東京 高体連選抜 5:04:57

団体総合成績

- 1 JCFチーム 10:03:38
- 2 GS特選クラブ 10:05:28
- 3 ノコシロース 10:06:19



2005年世界ジュニア自転車競技選手権大会



今年のジュニア世界選手権はトラックが8月7日～10日、ロードが12～14日の日程でオーストリアで開催された。出発前にはトラック2回、ロード1回の合宿を行い万全の体制で臨んだ。参加した選手は大変緊張気味で長時間のフライトや慣れない食事、言葉の壁と体格の大きい選手と大会の雰囲気圧迫されていた。

ポイントレース出場の兼平(紫波総合)は予選・決勝において、終始積極的な走りが出来て大きな期待が持てた。結果は6位であったがエリートへ行っても充分戦える資質を見せてくれた。決勝においてはハイペースの展開により今までにない負荷が体にかかり、両膝を痛めてしまい、エントリ予定の3km個人追抜は棄権した。

スクラッチ出場の川西(日本大学)も決勝はそのスピードの速さについていけなかった。期待の3km個人追抜においても1周目から飛ばしたが、毎周回ラップダウンで平凡なタイムで終わってしまった。

ケイリン出場の阿部(東北高校)は積極的な走りで1回戦を1位通過、2回戦においても位置取りとゴール前に相当からの接触があったにもかかわらず一歩も引かないスピリッツは評価できる。7位～12位決定戦に回り4着10位であった。小原(別府商業)についても予選2着であったが1位上がりのため、敗者復活戦回りへ2着敗退となってしまった。

1km TTは佐々木(大曲農業)が出走で1分08秒台の自己新を出したが優勝タイムは03秒台で、メダル獲得のためには04秒台が必要である。

スプリント予選は小原11秒3、佐々木11秒1でともに予選落ち、トップタイムは10秒1で、最終的にその選手が優勝をした。

チームスプリントは昨年銀メダル実績、更にエリートを含め日本が一番メダルに近い種目である。優勝したドイツチームは、スプリントで200mを10秒台で走る3名が出場して45秒台。日本チームは47秒台を出したが8位であった。

岡(法政大)が参加した500m TTは自己ベストを下回り38秒台の平凡タイム。35秒台の世界新記録もレベルの高さを物語る。**スプリント**予選においても12秒9のため、予選敗退。**ケイリン**ではゴール前で前走者の落車に巻き込まれてしまった。

選手に必要なと感じたことは日本と余りに

も異なる環境の変化にいち早く対応し適応する力である。(トラック監督 折本 裕樹)

[競技結果](日本参加種目のみ)

2005年世界ジュニア選手権トラック
(2005/8/7-10 オーストリア)

男子1kmタイムトライアル			
1	LEVY Maximilian	GER	1:03.757
2	SIREAU Kevin	FRA	1:04.080
3	SUNDERLAND Scott	AUS	1:04.378
15	佐々木吉徳	JPN	1:08.277

男子スプリント			
1	LEVY Maximilian	GER	
2	SIREAU Kevin	FRA	
3	WITTMANN Benjamin	GER	
	佐々木吉徳	JPN	予選敗退
	小原 将道	JPN	予選敗退

男子ケイリン			
1	VOLIKAKIS Christos	GRE	
2	POPER Rafal	POL	
3	ENDERS Rene	GER	
10	阿部 力也	JPN	
	小原 将道	JPN	1回戦敗退

男子3km個人追抜競走			
1	TENNANT Andrew	GBR	3:20.835
2	BEWLEY Sam	NZL	3:25.261
3	ROVNY Ivan	RUS	3:22.702
33	川西 貴之	JPN	3:40.883

男子スクラッチ(10km)			
1	KLEIN Philipp	GER	
2	POLIVODA Oleksandr	UKR	
3	PERIZZOLO Loic	SUI	
19	川西 貴之	JPN	

男子ポイントレース(25km)			
1	JURSYS Egidijus	LTU	52p
2	KREDER Michel	NED	34p
3	MAXIMOV Roman	RUS	31p
6	兼平 純	JPN	8p

男子チームスプリント			
1	GER		45.481
2	FRA		46.062
3	AUS		46.593
8	日本 阿部・佐々木・小原		47.905

男子4km団体追抜競走			
1	NZL		4:16.580
2	GBR		-
3	AUS		4:12.163
16	日本 阿部・兼平・川西・佐々木		4:40.463

女子500mタイムトライアル			
1	GUERRA LIZANDRA	CUB	35.500
2	SHULIKA Lyubov	UKR	35.804
3	CLAIR Sandie	FRA	36.105
20	岡 希美	JPN	38.554

女子スプリント			
1	GUERRA LIZANDRA	CUB	
2	BLYTH Anna	GBR	
3	HENRIETTE Elodie	FRA	
	岡 希美	JPN	1/16F敗退

女子ケイリン			
1	MACPHERSON Chloe	AUS	
2	PARK Eunmi	KOR	
3	BLYTH Anna	GBR	
	岡 希美	JPN	1回戦敗退



8月12日(金)

個人タイムトライアル 女子14km 男子23.5km

TTには、先般行われたインターハイ高校新記録を出した角(兵庫)と昨年ラビティ代表の大園(奈良)の2名が出場した。スピードある角に期待されたがTOPから3分43秒遅れの62位、大園も3分39秒遅れの61位であった。機材もさることながら上位陣のパフォーマンスには脱帽である。優勝したドイツの選手は23.5kmを平均速度54.7km/hでゴールした。平地こそ大差ないものの、なだらかな下りになるとスピードをさらに加速させていた。

スタート直前に雨が降り出しウォーミングアップが不十分であった事、後半に出場した選手は雨も上がりコンディションにも恵まれたこと、そして機材の問題等要因は数多くあるが、それらをクリアしたとしてもそこまでタイムが上がるかどうか...

出場した選手曰く「今までのレースで一番きつかった...」とのこと。種目への適性が高い選手である事を考えれば、現在のトレーニングそのものを考えなおさ直さなければならぬと感じた。

男子に先立って行われた女子のレースでは、コンディションにも恵まれず(雨天)男子同様惨敗であった。

8月14日(日)

個人ロードレース 女子70km 男子126km

午前中に女子のレースが実施された。スタート直後の最初の登りで離され、第2補給所を過ぎたところで1度は追いついたものの、2周目に入ると徐々に集団との差が開いていった。途中から選手本人も目標を完走に切り替え周回を重ねた。最終周回に入れるかどうか非常に微妙な差であったが何とか最終走者でゴールする事ができた。

午後は14km9周の男子が実施された。TTの2名に加えて全日本ジュニアロード選手権優勝の佐伯(福島)を加え3名でエントリした。距離的な不安よりも、長くはないが急な登坂と急な下り坂、出口が狭くなっている逆バンクのタイトなコーナー、1周当たり高低差が伊豆のCSCより多いことなど、

ツール・ド・ラビティビ2005

難易度は高いコースである。そしてスタート直後に左へ直角コーナー、直後の登り坂でスタート位置の重要性は理解できていた。予想通りスタートと同時に各国の選手達は我先にコーナーに飛び込んでいった。

2周目まではペースも速かったが、登りのスピードは気にならなかったようである。しかし、2周目が終わる頃集団で大量落車が発生し日本選手も落車こそなかったが進路を阻まれ、三選手が足止めを余儀なくされTOPから遅れた。この時のそれぞれの場所が明暗を分けた。

その後、角はメイン集団に復帰するも大園、佐伯ともこれが原因でメイン集団から遅れDNFとなった。集団に復帰した角は軽そうに足を回しており、完走というよけむしる上位入賞の期待すら抱かせるような走りであった。本人曰く「集団さえキープできれば余裕がありました」自分でもレース後半の勝負のイメージを作っていたようであった。しかしその後の集団落車、機材トラブルによってDNFとなった。

コースにより向き不向きがあるので一概には言えないが、今回のコースに関して言えば「完走は問題なし」、優勝は難しいにしても上位入賞は「何とかなる」と感じた。

世界戦に限らず世界で結果を残すために必要な事は、コミュニケーション能力、機材を含む参加時のサポート体制、そして活動拠点をヨーロッパに作り、選手のみならずスタッフも経験を積む事が必要であると感じた。(ロード監督 中田 将次)

[競技結果]

2005年世界ジュニア選手権ロード
(2005/8/12-14 オーストラリア)

男子個人タイムトライアル (23.5km)

1	KITTEL Marcel	GER	25:45.82
2	PLIUSCHKIN Alexandr	MDA	25:50.70
3	PAPOK Siarhei	BLR	26:25.79
61	大園 健太	JPN	29:25.01
62	角 令央奈	JPN	29:29.26

女子個人タイムトライアル (14km)

1	BRENNAUER Lisa	GER	19:49.66
2	HURIKOVA Tereza	CZE	20:01.27
3	LACOTA Mie-Bekker	DEN	20:08.43
40	和田美里見	JPN	22:48.15

男子個人ロードレース (126km)

1	ROVNY Ivan	RUS	3:04:46
2	KRITSKIY Timofey	RUS	3:04:51
3	HANS Sebastian	GER	3:04:53
	佐伯 翔	JPN	DNF
	大園 健太	JPN	DNF
	角 令央奈	JPN	DNF

女子個人ロードレース (70km)

1	LACOTA Mie-Bekker	DEN	1:56:10
2	VOS Marianne	NED	1:56:10
3	LELEIVYTE RASA	LTU	1:56:13
75	和田美里見	JPN	2:20:53



本チームも実際の走行タイムよりも約30秒カウントされた。ペナルティでもないのに何故?と感じさせるところであり、各チームからも非常に不評であった。クールダウンを兼ねて宿舎

7月18日(月)

チーム紹介&オープンクリテリウム

8時過ぎにようやく遅れていた荷物が到着し、慌てて自転車を組み立てた。

午前中に軽くクリテリウムとTTのコースの試走を兼ねてロードワーク。

18時半より、クリテリウムのスタート&ゴール地点で選手紹介が行われ大いに盛り上がった。スタート時刻が10分早まり、19時20分オープンクリテリウムスタートとなった。順位には関係無いとはいえ、上位陣は真剣そのもので、地元カナダのナショナルチャンピオンが貫禄の優勝を飾った。

7月19日(火)

第1ステージ チームタイムトライアル 第2ステージ クリテリウム

9時チームTTスタート。前日のくじ引きにより名誉ある第1スタートの権利を得てスタートした。宿舎を出る時にこの風向きは...の不安が的中し、約17kmのコースすべてが向かい風であった。風除けになるような建物もまったくなく、向かい風に加えて、足に効きそうなアップダウンのコースであり選手を苦しめた。この種目大型選手が圧倒的に有利であることは間違いの無いところであるが、日本チームは3kmの持ちタイムの速い選手が先頭を積極的に引っ張り、6名揃って完走し21位でレースを終えた。とくに角、渡辺が中心となってチームを引っ張った。

上位10チームはTT用バイクを投入しており、参加に際しての認識が甘かった。また、実走タイムに加えて、順位により変則的にタイムが付加され日

に戻り、13時に昼食を摂り夕方からの第2ステージに備えた。

ギヤチェックを済ませ、19時に第2ステージのクリテリウムスタート。1周2.2km×25周で実施された。バルドールの中心街で実施されるため観客も非常に多く、選手も頑張り甲斐がある。レースは、3名が残り4周くらいからエスケープ成功し、最終周回に入る。最終周回にはメイン集団が直後にまで迫ったが届かず3名のスプリントにより上位が決まり、日本選手は後続集団のゴールスプリントを角が制し、4位でフィニッシュ!幸先のいいスタートとなった。21時より夕食を摂り翌日に備えた。

7月20日(水)

第3ステージ 110.1km + 2.2km×3周

17時のスタート直後、針谷が落車に巻きこまれメイン集団から遅れた。長時間の移動と時差で体調も万全ではなかったかも知れない。今後の課題である。レース中盤に市山が落車を回避しようとして道路横の砂利道にコースアウト。その際前輪がパンクした。車輪を交換し、集団に復帰した。

スタート後1時間くらい走ったところで3名の選手がエスケープに成功し、後続に約1分のアドバンテージ。市山がレース後半に4名でメイン集団を飛び出しトップグループに追いついた。

ゴール前15kmでチームカーが呼ばれトップグループ7名をサポートしゴールのあるバルドールの町を目指した。クリテリウムコース最終周回の緩やかな登り坂を利用してロングスパートを仕掛けた選手が優勝。その直後の

スプリント勝負を市山が制し、本大会過去最高順位を獲得した。

7月21日(木)

第4ステージ 個人タイムトライアル

第5ステージ 70.5km + 2.2km × 6周

8時より、個人タイムトライアルが開始された。スタートはバルドールの観光名所である金鉱跡地の地下坑道を出発点とする14kmのコースで行われた。スタートは急勾配の登りで、しかも路面はウェットのため、スタート時のギア選択は慎重に行った。

日本選手は戸惑いながらも順調なスタートを切っていった。前日成績からの期待のかかる市山であるが、3km地点から4km地点にかけての登りでペースが上がらない…。チームカーからの檄に懸命に応えようとするが思うようにペースが上がらない。チームTTも含めて日本選手のTT系種目の弱さを露呈したステージであった。本大会でチームのみならず個人においても上位を目指すなら、TT系に強い選手をセレクトしなければならないと思われる。輸送の都合上、競技用器材に制限があるが「勝つ!」ためには、器材面も含めて前向きに検討しなければならない。

レース後昼食を摂り、慌しくハンドル等を交換し、15時半スタート地点行きバスに乗り込んだ。ギヤチェック&出走サインを済ませ18時スタート。

きれいな湖を横目にレースは序盤より積極的に展開された。市山と角がエスケープ集団を追い合流を果し、後続とのタイム差を50秒くらい保ちながら逃げていた。有力チームのメンバーも含まれており、昨日と同じような展開を予想させたが、45km付近において約40名の落車(続谷が巻き込まれる)が発生し、それを機に集団のペースが一気に上がりエスケープ集団が吸収された。

レース後半も幾度となくアタックが繰り返されたが、周回コースに入った直後に3名の選手が集団を飛び出しエスケープに成功、集団をリードした。残り2周で1名が脱落し2名の選手で最終周回を迎えた。最終コーナーから2名の選手が見えた直後にメイン集団が迫り、優勝の行方が予想できない状態であったが、結果2名の選手が逃げ切り、ベルギー選手が優勝、直後にメイン集団がゴールしレース終了。メイン集団前方で大久保が10位、角19位でフィ

ニッシュした。入賞者はなかったが積極的な走りを評価したい。また、ステージ別チーム順位では3位を獲得した。

7月22日(金)

第6ステージ 103.1km + 2.2km × 6周

11時から軽くロードトレーニングを行い、13時から遅めの昼食を摂り、移動の準備にとりかかった。スタート地点行きバスに14時半に乗り込み、バスで移動すること1時間30分、17時のスタートに備えた。

スタート時刻が近づくにつれて雲行きが怪しくなり、スタート時には雨が降り出し、気温も一気に16℃まで下がった。途中も土砂降りこそないが、降ったり止んだりのコンディションで途中チームカーよりレインコートを手渡すこともあった。

レース中盤より市山がエスケープ集団に入り7名でゴールを目指した。街中の周回コースに入り1名の選手が単独アタックを試み、見事単独で約10km逃げに成功した。後続は3名+3名のグループに分断され、後者のスプリントを制して5位に入賞した。レース後は直ちに宿舎に戻り身体を温めるとともに、自転車の洗車を行い、並行してマッサージ等を行い慌しく一日を終えた。

7月23日(土)

第7ステージ 83.8km + 2.2km × 8周

10時より軽く練習を行なった。角は昨晚より発熱し、ドクターストップ。スタートリストにサインすることはなかった…。

いつもより1時間遅いスタートだから、スタート地点には軽食をサービスしてくれるスペースがあり、軽くレース前の腹ごしらえ。穏やかな天候の中18時にレーススタート。

スタート直後は湖畔を眺めながらスローなスタート…と淡い期待を抱いていたが大きな間違いであった。スタート直後より山岳賞とポイント賞狙いでアタックの応酬が繰り返されハイスピードな展開であった。

緩やかな下りではメーター読みで80km/h、スプリントポイント手前では60km/hを楽に越えるスピードであった。疲労もピークにきており、ちぎれる選手も多く見られた。

市山がKOM(山岳賞)で昨日までで4位であったため、道中はこの賞を獲得するために積極的に動いた。結果、2回ある

KOMをトップで通過し効率良くポイントを稼ぎ2位に浮上した。

その後は30km地点で、8名がアタックしエスケープする。日本チームは集団に取り残されてしまった。第2集団からのアタックは何度か見られたが、なかなか抜け出すことはできなかったが、終盤に飛び出した数名が追いつき14名で周回コースに入った。

残り周回が少なくなるにつれてメイン集団とのタイム差が少なくなり、最終周回に入る頃には射程距離に入っていた。最終コーナーからエスケープ集団が見えた直後にメイン集団が迫っており、ゴール前大いに盛り上がったが、結果エスケープ集団内でのスプリントを制した選手が優勝した。

7月24日(日)

最終ステージクリテリウム 2.2km × 32周

いよいよ最終ステージとなった。レース序盤より各選手積極的にアタック、途中小人数のエスケープ集団を幾度となく形成するも決定打には至らず。レース中盤に飛び出した3つの小人数のグループが集まり、12名のトップ集団を形成した。このトップグループが最終ラップまで逃げつづけた。後続のメイングループも後半にペースアップし最終周回にはトップグループを射程距離においた。ゴールはトップ集団から緩やかな上り坂で単独で飛び出した選手が逃げ切りで優勝を飾り、残り是一部メイン集団に吸収されつつ最終スプリントに入りフィニッシュした。日本選手は疲労困憊の様子で見せ場を作ることができなかった。

夕方より表彰式があり、各チームの投票により行なわれる各賞の中の1つであるアグレッシブ賞に市山が(日本選手初受賞)選ばれた。(中田 将次)

[競技結果]

個人総合成績

43	市山 研	神奈川県 法政第二高校
65	大久保光次	宮城 東北高校
70	続谷 利次	東京 昭和一学園
79	渡邊 正光	福島 平工業高校

チーム総合成績

17 日本チーム

山岳賞

2	市山 研	神奈川県 法政第二高校
15	渡邊 正光	福島 平工業高校

スプリント賞

5	市山 研	神奈川県 法政第二高校
30	大久保光次	宮城 東北高校

第40回全国都道府県対抗自転車競技大会

第40回全国都道府県対抗自転車競技大会・第61回国民体育大会自転車競技リハーサル大会が、日本標準時の東経135度「子午線あかし」として有名な兵庫県明石市で平成17年8月20日から8月23日まで開催された。来年2006年開催の「のじぎく兵庫国体」に備え地元兵庫県明石市では、実施本部、スタッフ、ボランティアの数が千人を超える万全の体制で臨んだ。

ロードレースは、マイカル明石駐車場前をスタート・フィニッシュで、明姫幹線(国道250号)を周回する特設ロードレースコースで行われ、トラックレースは、リニューアルされた兵庫県立明石公園自転車競技場(周長400m)で行われた。

ロードレースは1周17.6kmのほとんど起伏の無いコースで、折り返し2車線を利用する男子6周105.6km、女子3周52.8kmで行われた。レースは集団のアタックが繰返えされる白熱あるレースが展開され、沿道からは大きな声援が飛んでいた。男子はベテラン菅原勝良(埼玉)と地元兵庫の日置大介の一騎打ちとなり、菅原が僅かに日置を抑え2年振りの優勝を飾った。また、高校生ながら地元兵庫の角令央奈が4位に入る健闘を見せた。

女子は11名のゴール勝負となり、昨年に続き森本朱美(鳥取)が優勝した。2位には同じ鳥取の和田見里美(倉吉東高)が入った。また前半積極的に小野山恵美(愛媛)と2人で逃げた、豊岡英子(広島)が3位となった。

トラックレースは天候が不安定で2日目は雨となり好記録には結びつかなかった。団体種目の4km団体追抜競走では岐阜が昨年に続き4分37秒486で優勝し、チームスプリントでは秋田が1分18秒948で優勝。

ポイントレース成年では、菅原がロードに続いて優勝し、少年では地元の角が積極的にポイントを重ね優勝、女子は20名のエントリーがあり和田見が昨年の覇者森本を押さえ優勝した。

また短距離種目では、タイムトライアル成年で三谷将太(滋賀)、少年で片折亮太(埼玉)がそれぞれ1分8秒中盤のタイムで優勝し、女子は太刀川麻也(茨城)が、この種目6度目の優勝を飾った。スプリントでは高校生ながら阿部力也(宮城)が優勝した。



団抜優勝の岐阜チーム

[競技結果]

第40回全国都道府県対抗自転車競技大会
(2005/8/21-23 兵庫・明石)

成年男子1kmタイムトライアル

1	三谷 将太 滋 賀	1:08.529
2	佐藤 幸治 秋 田	1:09.096
3	芳野 匠 愛 媛	1:09.175
4	山本 義晃 群 馬	1:09.202
5	黒木 裕介 宮 崎	1:09.260
6	山我 宗永 石 川	1:09.285

少年男子1kmタイムトライアル

1	片折 亮太 埼 玉	1:08.624
2	柁原 翔太 神奈川	1:09.356
3	日当 泰之 青 森	1:09.494
4	不破 将登 岐 阜	1:09.701
5	相馬 直樹 新 潟	1:10.085
6	深谷 知広 愛 知	1:10.404

男子スプリント

1	阿部 力也 宮 城
2	河端 朋之 鳥 取
3	森川 大輔 岐 阜
4	佐々木吉徳 秋 田
5	中野 彰人 和歌山
6	湯原 正行 長 野

成年男子ポイントレース(30km)

1	菅原 勝良 埼 玉	84p
2	普久原 奨 沖 縄	63p
3	曾田 晴夫 鳥 根	25p
4	棟久 明博 山 口	17p
5	田畔 嘉人 滋 賀	16p
6	長野 耕治 愛 媛	16p

少年男子ポイントレース(24km)

1	角 令央奈 兵 庫	48p
2	石倉 龍二 和歌山	39p
3	穂苅 大地 新 潟	39p
4	大久保光次 宮 城	12p
5	篠原 力也 香 川	10p
6	竹下 翔 熊 本	7p

男子チームスプリント

1	秋 田 佐藤・山崎・佐々木	1:18.948
---	---------------	----------

2	愛 媛 芳野・栗田・永井	1:21.338
3	埼 玉 片折・春木・阿部	1:20.020
4	石 川 山我・戸田・岩田	1:22.671
5	広 島 才迫・桶谷・坊	1:22.477
6	長 野 小峰・秋山・湯原	1:23.046

男子4km団体追抜競走

1	岐阜 加藤・不破・野村・井関	4:37.486
2	和歌山 森田・藤田・中野・石倉	4:37.849
3	福島 我妻・田崎・渡邊・小野寺	4:36.226
4	福井 山本・高間・廣木・脇本	4:38.982
5	島根 岡田・寺本・原・曾田	4:38.824
6	京都 小西・岩崎・菱田・海老瀬	4:39.143

男子個人ロードレース(105.6km)

1	菅原 勝良 埼 玉	2:25:55
2	日置 大介 兵 庫	2:25:55
3	辻 善光 京 都	2:26:14
4	角 令央奈 兵 庫	2:26:14
5	秋田 謙 愛 知	2:26:14
6	棟久 明博 山 口	2:26:14
7	鉄沢 孝一 石 川	2:26:14
8	小笠原崇裕 長 野	2:26:14
9	松井 久 大 阪	2:26:14
10	岡部 英人 富 山	2:26:14

都道府県対抗(男子)

1	埼玉県	42p
2	秋田県	36p
3	岐阜県	35p
4	和歌山県	32p
5	愛媛県	30p
6	兵庫県	26p

女子500mタイムトライアル

1	太刀川麻也 茨 城	38.652
2	川満 佳子 熊 本	39.179
3	河端あゆみ 鳥 取	40.253
3	福島 麻実 熊 本	40.482
5	和田見里美 鳥 取	40.560
6	川又 千裕 鹿 児 島	40.709

女子ポイントレース(16km)

1	和田見里美 鳥 取	30p
2	森本 朱美 鳥 取	22p
3	堀 友紀代 神奈川	10p
4	井上 玲美 東 京	9p
5	太刀川麻也 茨 城	-13p
6	中山 朋子 神奈川	-17p

女子個人ロードレース(52.8km)

1	森本 朱美 鳥 取	1:26:42
2	和田見里美 鳥 取	1:26:42
3	豊岡 英子 広 島	1:26:42
4	堀 友紀代 神奈川	1:26:42
5	坂田 佳子 兵 庫	1:26:42
6	三井 由香 兵 庫	1:26:42
7	日暮 千早 鹿 児 島	1:26:42
8	小高セツコ 埼 玉	1:26:42
9	小谷 翠 愛 媛	1:26:42
10	針谷千紗子 栃 木	1:26:42

都道府県対抗(女子)

1	鳥取県	40p
2	神奈川県	14p
3	熊本県	13p

経済産業大臣旗 第39回全日本実業団対抗サイクルロードレース大会



BR-1メイン集団

9月3日・4日、長野県大町で第39回全日本実業団対抗サイクルロードレースが開催された。

両日とも時折雨が降る、微妙な天候であったが、日曜日の昼頃からは太陽も見えてくる程になった。

大会は中綱湖からパレードスタートし、青木湖の周回(7.2km)を反時計廻りに周回し、最後はサンアルピナスキー場まで、4kmの登坂をするコースである。

土曜日に行われた女子では、豊岡(bichinoko)が優勝。

日曜日に行われたメインレースのBR-1では青木湖周回中、阿部(シマノ)、盛(愛三)、石田(Nippo)、米山(ラバネ



BR-1青木湖周回中の逃げ集団



ロ)行成(Z-1)、綾部(ミヤタ)の6人の本格的な逃げが決まるが、周回コースが終わるまでには吸収され、また振り出しに戻ってしまう。

そして最後の登坂路を最初に駆け上がってきたのは、全日本実業団ロード初勝利の狩野(シマノ)であった。



BR-1チャンピオン狩野



女子チャンピオン豊岡

第39回全日本実業団対抗サイクリングロードレース
(2005/9/3-4 長野・大町)

BR-1 (185km)

- 1 狩野 智也 JPCA シムルレーシング 4:15:01
- 2 別府 匠 JPCA 愛三工業 4:15:11
- 3 岡崎 和也 JPCA Team Nippo 4:15:33
- 4 真鍋 和幸 JPCA Team Nippo 4:15:41
- 5 柿沼 章 栃木 ミヤザバ 4:15:45
- 6 飯島 誠 JPCA ミヤザバ 4:15:47
- 7 廣瀬 佳正 JPCA シムルレーシング 4:16:08
- 8 田中 光輝 愛知 愛三工業 4:16:09
- 9 広瀬 学 石川 村ノCCD 4:16:13
- 10 松井 久 大阪 ナカガワS.A.S. 4:16:16

BR-1団体成績

- 1 愛三工業 2 シムルレーシング 3 村ノCCD

BR-2 (77km)

- 1 真鍋 英祐 山口 Sakatani R. 1:57:41
- 2 服部 健一 大阪 Sakatani R. 1:58:01
- 3 丸山 厚 長野 スコレーシング 1:58:53
- 4 野田 洋一 長野 スコレーシング 1:58:58
- 5 三浦 重範 東京 なるしまF. 1:59:03
- 6 塚野 満 千葉 L.ottimo 1:59:05
- 7 山田 隆史 山梨 オペスタイル 1:59:25
- 8 山口 公一 富山 オペスタイル 1:59:27
- 9 藤田 将志 三重 ナカガワS.A.S. 1:59:27
- 10 森島 直人 愛知 Verdad 1:59:32

BR-3 (41km)

- 1 山本 和弘 北海道 あづみの 1:09:05
- 2 加藤 孝啓 岐阜 BREZZART 1:09:28
- 3 黒田 篤 福井 BALBAR. 1:09:31
- 4 高梨 学 東京 なるしまF. 1:09:31
- 5 藤岡 徹也 兵庫 クラブ シルバスト 1:09:39
- 6 川崎 敦木 大阪 ナカガワS.A.S. 1:09:47
- 7 茂木 一輝 長野 サニール 1:10:05
- 8 長澤 大志 神奈川 チームステップ 1:10:13
- 9 Neil Millar 千葉 チーム・アイロ 1:10:15
- 10 徳岡 秀昭 大阪 Sakatani R. 1:10:16

女子 (34km)

- 1 豊岡 英子 広島 bicinoko.com 1:03:45
- 2 山口 亮子 愛知 村ノCCD 1:04:47
- 3 小山美貴子 埼玉 ZELKOVA 1:05:08
- 4 西 加南子 千葉 ミヤザバ 4:15:44
- 5 池田 桂子 大阪 Testach-R. 1:06:14



末永くお付き合いいただくために。



シマノ製品をご愛用いただきまして

ありがとうございます。

シマノではユーザーの皆様へ、当社製品と

末永くお付き合いいただけるよう、

各種補修用パーツをご用意しております。

- 製品についている取扱説明書をご使用前に必ずお読みください。
- 機能保証のために分解できないパーツもあります。
- お近くの自転車店でご相談下さい。別途送料がかかる場合があります。
- 在庫状況により、品切れの場合もあります。予めご了承下さい。

SHIMANO

www.shimano.com

XBC001-A

第22回シマノ鈴鹿国際ロードレース大会



8月27日・28日、恒例になった第22回シマノ鈴鹿ロードが三重県鈴鹿サーキットで行われた。

一時雲が広がる時もあったが、ほぼ天候に恵まれ、夏休み最後を楽しむ人たちが多いにぎわった。

日曜日の最後を飾る国際ロードには、国内外からの招待選手を含む201名の選手がスタートした。

アタックが何度も繰り返されたが、58.24kmという距離のため、結果的には集団でのゴール争いとなり、シマノの山本雅道がスプリントをとり、1・2・3をホストチームのシマノが独占する結果となった。



第22回シマノ鈴鹿国際ロードレース大会
(2005/8/28 三重・鈴鹿サーキット)

国際ロード (58.24km)

- 1 山本 雅道 JPCA Shimano 1:15:18.01
- 2 Rudie Kemna Shimano 1:15:18.11
- 3 Alain van Katwijk Shimano 1:15:18.27
- 4 Mark Hester Hansen GLS 1:15:18.27
- 5 大内 薫 JPCA Shimano 1:15:18.63
- 6 鈴木 真理 JPCA プリンス 1:15:18.68
- 7 飯島 誠 JPCA 丸和 1:15:18.72
- 8 廣瀬 敏 JPCA 愛三工業 1:15:20.62
- 9 佐野 友哉 埼玉 1:15:20.77
- 10 清水 裕輔 埼玉 1:15:22.01



3位 Alain van Katwijk

1位 山本雅道

4位 Mark Hester Hansen

2位 Rudie Kemna

高地トレーニング医科学サポート



今年7月、ロードナショナルチームのメンバー6名が中国の昆明市近郊で約1ヶ月間の高地トレーニングを行った。

昆明市は標高1,900mに位置し、年間を通して温暖な気候であり、日本との時差も1時間であるために、高地トレーニングの環境としては良い条件であること、そして、2008年には北京オリンピックが開催されることから、この昆明で高地トレーニングを行った。

今回は、体重、脈拍、血液検査、尿検査、心理テストおよびトレーニング状態等をチェックしてコンディションを管理し、トレーニング中には心拍数やペダル回転数、走行スピードやパワー、そして、血中乳酸濃度等を記録して医・科学的なサポートを実施した。トレーニングの内容についても、通常のトレーニングと比べトレーニング量や負荷も十分に確保でき、効果的なトレーニングができた。肝心の成績は、帰国後のフィットネスチェックでは、選手全員が酸素運搬・利用能力が改善した。

帰国してから選手は疲労もあったが、国内レースでの上位入賞および海外レースでの上位完走をしており、高地トレーニング以降のレースでは大いに活躍している。現在は良好なコンディションであることから、9月以降のレースでの活躍が大いに期待される。

競技力向上のためのトレーニング方法は非常にバラエティーに富んでおり、その中でも高地トレーニングは主として持久的な競技種目の競技力向上のために実践されている。

最近では、昨年のアテネオリンピックでチームスプリントが銀メダルを獲得したことは記憶に新しいところだが、大会前にはトラックナショナルチームがアメリカ合衆国・コロラドスプリングスで高地トレーニングを行っており、持久的な競技種目だけではな

く短距離種目においても高地トレーニングの可能性が示されつつある。

この高地トレーニングは、赤血球数やヘモグロビン濃度を高めて体内への酸素運搬能力を改善したり、その体内に運んだ酸素を主には筋肉で効果的に利用する能力を高めたりすることで、パフォーマンスを高めることがねらいとなるが、この効果の獲得には4週間程度の高地トレーニングが必要とされている。

しかしながら、高地トレーニングをすれば必ず良い成績につながっているわけではないようだ。その原因としては、高地環境、いわゆる低酸素および低温・低湿度といった特殊な環境においては、選手のコンディショニングが大きく左右されること、酸素の薄い高地でのトレーニング方法が適当ではなかったこと、さらには、国内においては高地環境に恵まれず、日本選手は高地トレーニングを海外で行うことを余儀なくされるケースが多いために時差によるコンディション維持が困難になること等が考えらる。したがって、当然のことながら高地トレーニングに対する準備や対策が成功への鍵となる。

さらには、高地トレーニングに代わりうるトレーニング方法として、低酸

素室(常圧低酸素室)が開発され、国内においても普及しつつある。様々な研究結果から、高地トレーニング前に低酸素室を使用して準備すること、あるいは、これまでのように高地環境を求めて海外へ行かなくても、国内にある低酸素室を利用することで高地トレーニングと同様の効果が獲得できることも明らかになりつつあることから、選手やコーチにはトレーニングの方法に幅広い選択肢ができたことになる。

JCFにおいても、2001年から自転車ロードナショナルチームが競技力向上のための高地トレーニングあるいは低酸素室を利用したトレーニングについて研究し、実践してきているが、当初はすべてが成功したのではなく、例をあげると、2001年の青海省ロードステージレース(標高3,500m)の時には、準備不足によって5名中3名がレース途中で帰国を余儀なくされるという大失敗があり、こうした失敗を二度と繰り返さないために医・科学的なサポートを行いつつ、準備や対策をし、効果を確認している。

今後、選手の競技力向上を図るためにも大いに活用してゆかなければならないトレーニングであると思われる。(JCF選手強化委員会・医科学委員内丸仁)

2005年UCIロード世界選手権大会 日本代表選手団

大会名	2005年UCIロード世界選手権大会	
派遣日程	2005年9月17日～27日	大会日程 2005年9月21日～25日
開催場所	スペイン・マドリッド	
派遣選手団		
監督	高橋 松吉 (JCF強化コーチ)	
コーチ	大門 宏 (JCFロード競技部会部員)	
スタッフ	浅田 顕・小野 絹代 (JCFロード競技部会部員)	
メカニック	小松 洋樹 (チームブリヂストン・アンカー)	
マッサージ	ヘルナンドス・モラ・ゴンザレス	
選手		
男子エリート個人ロードレース		
	飯島 誠 (JPCA・スミタラバネロパールイズミ)	
	福島 康司 (JPCA・チームブリヂストン・アンカー)	
	福島 晋一 (JPCA・チームブリヂストン・アンカー)	
男子エリート個人タイムトライアル		
	別府 史之 (JPCA・ディスカバリーチャンネル)	
女子エリート個人ロードレース		
	沖 美穂 (JPCA・ラ・ピスタ・ワナビー)	
	唐見実世子 (JPCA・カツリーズサイクル)	
男子U23個人ロードレース		
	新城 幸也 (沖縄・チームブリヂストン・エスポワール)	
	田中 聡 (埼玉・チームブリヂストン・エスポワール)	

第61回全日本大学対抗選手権自転車競技大会



男子ケイリンスタート

大学自転車競技の頂点として位置づけられる“インカレ”が、今年18年振りに、みちのく岩手にて開催された。前回の1987年当時は、日本代表メンバーが大学に数多く在籍し、翌年のソウル五輪にも大学生選手5名を輩出している。その後のプロ・アマオープン化など、環境の変化は有るものの、今後は学生競技者の更なるレベルアップが望まれる。そうした時代変化の中でも“常勝”チームである日本大学が、今年もトラック、ロード共に着実に得点を重ね、ついに男子総合23連覇という偉業が達成された。また、女子総合では全種目で上位入賞を果たした鹿屋体育大が2連覇を飾った。

【男子トラックレース】

スプリントは、予選1位の屋良(日大)と2位の前田(鹿屋体育大)が順当に決勝へ勝ち上がり注目を集めたが、レース巧者である屋良が2本連取、この種目初優勝を飾った。

スプリントは、予選8位の鷲原・高木(朝日大)ペアが決勝進出の快進撃を見せ、決勝で予選3位の湯浅・光富(法大)ペアと接戦を繰り広げたが、法大ペアが競り勝ち、4年ぶりにタイトルを奪取した。

個人追抜は、決勝で西村(日大)vs.高島(中大)という、両校エース対決となったが、西村が安定したペースで徐々に高島を引き離し、昨年2位の雪辱を果たした。

ポイントレースは、三瀧(鹿屋体育大)、高島(中大)、柴田(朝日大)、櫻井(立命大)の4名が中盤に逃げて周回1ラップを達成し、他校が追う展開となった。しかし周回得点20点は圧倒的に優位であり、終始、積極果敢な走りを見せた三瀧(鹿屋体育大)が、インカレ初優勝を飾った。

チームスプリント。昨年まで3連覇の順大チームに挑んだのが中大チームである。短距離の主力選手により結成したメンバーで、決勝でも接戦となったが僅

かに順大が先着し、4連覇を達成した。

団体追抜は、今年も日大対法大の一騎打ちとなった。決勝では約3km地点までは終始法大リードでレースが進められたが、今年の日大チームはラスト1kmから脅威的な追い上げを見せて逆転優勝を果たした。この勝利は、総合23連覇への大きな弾みとなったことであろう。

【女子トラックレース】

昨年から力をつけてきた佃(北海学園北見大)が、他を圧倒するスプリント力とスタミナを見せ、スプリント、500m、ポイントレースの3冠を達成して、台風の目となった。

個人追抜は、萩原vs.宮崎の鹿屋体育大同士の対戦で行われ、最終周回まで見事な接戦を見せたが、萩原が僅かに先着、インカレ初優勝を飾った。

【男子個人ロードレース】

レース序盤は、数名が集団から飛び出しては吸収される展開でレースが進む。しかし中盤に入ると、秋山(日大)、村上(鹿屋体育大)ら有力選手を含む7名が集団を飛び出し、先頭集団を形成する。その後は先頭集団から脱落する者が出る一方、秋山、村上は快調に周回を重ね、最終周回では2名の一騎打ちとなったが、満を持して秋山がスパート。2位に1分余りの大差をつけ、インカレロード初優勝を飾った。

【女子個人ロードレース】

女子は鹿屋体育大の萩原と宮崎、明大の永田と石井、それに法大の松永と岡、予想通りの顔ぶれを含む集団が形成されたが、終盤に入ると萩原が抜け出して独走体制に入る。今年、萩原は学



第二の心臓、
足をやさしく、
包み込むサイクリングシューズ

pearl izumi
FOOT WEAR



株式会社パールイズミ 〒130-0026 東京都墨田区両国2-4-2 電話 03-3633-7556
http://www.pearlizumi.co.jp オンラインショップ http://shop.goo.ne.jp/store/ip-pearl

生個人ロードでも優勝しており、長距離種目でのスタミナでは、他選手を一步リードしている感があり、結局2位に4分以上の圧勝で、インカレ2種目目の優勝を飾った。(倉田 達樹)

[競技結果]

第61回全日本大学対抗選手権大会 (トヨタ: 2005/8/25-27 岩手・紫波自転車競技場、ロード: 2005/8/28 岩手・紫波)

男子1kmタイムトライアル

- 1 屋良 朝春 沖縄 日本大学 1:07.172
2 佐藤 博紀 岩手 日本大学 1:08.124
3 後藤 彰仁 岐阜 朝日大学 1:09.085
4 西村 光太 三重 早稲田大学 1:09.097
5 水野 悟志 静岡 法政大学 1:09.104
6 片山 智晴 岡山 法政大学 1:09.270

男子ロード

- 1 屋良 朝春 沖縄 日本大学
2 前田 義和 鹿児島 鹿屋体育大学
3 川村 崇 東京 早稲田大学
4 中村 健志 熊本 日本大学
5 西村 光太 三重 早稲田大学
6 小林 彰夫 福島 中央大学

男子ケイリン

- 1 鈴木雄一朗 山梨 日本大学
2 菅井 寛之 山形 法政大学
3 桜井 太土 鳥取 中央大学
4 川崎 大慈 熊本 順天堂大学
5 和田 圭 宮城 東北学院大学
6 下沖 功児 宮崎 慶應義塾大学

男子4km個人追抜競走

- 1 西村 行貴 熊本 日本大学 4:59.656
2 高島 豪 埼玉 中央大学 5:04.696
3 明珍 周兵 福島 法政大学 4:55.545
4 太田 貴明 京都 京都産業大 4:58.090
5 村上 純平 山形 鹿屋体育大 5:01.083
6 根本 哲吏 秋田 明治大学 5:02.156

男子ポイントレース

- 1 三瀧 光誠 山形 鹿屋体育大学 52p
2 高島 豪 埼玉 中央大学 46p
3 柴田 一樹 神奈川 朝日大学 44p
4 佐藤 佑一 岩手 順天堂大学 41p
5 櫻井 透 神奈川 立命館大学 33p
6 守澤 太志 秋田 明治大学 29p

男子タフタイムトライアル

- 1 法政大学 湯浅・光富
2 朝日大学 鷺原・高木
3 東北学院大学 高橋・三浦
4 早稲田大学 宮原・岡本
5 順天堂大学 戸田・野口
6 日本大学 城・真船

男子チームタイムトライアル

- 1 順天堂大学 佐藤・佐川・内田 1:06.311
2 中央大学 小林・桜井・東矢 1:06.472
3 東北学院大 小池・和田・山田 1:07.280
4 京都産業大 鈴木・山崎・岡 1:07.413
5 富士大学 加藤・関田・林 1:08.890
6 名桜大学 喜納・山入端・井上 1:10.042

男子4km団体追抜競走

- 1 日本大学 西村・吉田・青木・小豆畑 4:30.130

- 2 法政大学 片山・柴田・明珍・池浦 4:31.245
3 朝日大学 中島・増田・菊池・和田 4:38.758
4 明治大学 立里・仲村・根本・守澤 4:41.942
5 鹿屋体大 三瀧・片山・村上・奥田 4:39.880
6 早稲田大 川村・吉次・西村・宮原 4:42.514

男子ロードレース(163.3km)

- 1 秋山 英也 長野 日本大学 4:20:33.05
2 村上 純平 山形 鹿屋体大 4:21:33.90
3 三瀧 光誠 山形 鹿屋体大 4:22:14.23
4 辻 善光 京都 立命館大 4:22:15.74
5 大庭 伸也 宮城 日本大学 4:22:17.41
6 根本 大地 東京 法政大学 4:22:20.51
7 大野 涼太 青森 中央大学 4:22:28.81
8 松田 究 北海道 早稲田大 4:22:49.60
9 片山 和正 岡山 鹿屋体大 4:22:57.44
10 伊勢 直人 大阪 朝日大学 4:23:03.25

男子大学対抗得点

- 1 日本大学 85p
2 鹿屋体育大学 51p
3 法政大学 49p

女子500mタイムトライアル

- 1 佃 咲江 北海道 北見大学 37.743
2 遠藤 友子 大分 鹿屋体育大学 38.171
3 岡 希美 群馬 法政大学 38.280
4 篠崎 新純 千葉 明治大学 38.388
5 沼部早紀子 栃木 順天堂大学 39.112
6 栗原 瞳 埼玉 順天堂大学 39.628

女子ロード

- 1 佃 咲江 北海道 北海学園北見大学
2 遠藤 友子 大分 鹿屋体育大学
3 篠崎 新純 千葉 明治大学
4 岡 希美 群馬 法政大学
5 沼部早紀子 栃木 順天堂大学
6 栗原 瞳 埼玉 順天堂大学

女子3km個人追抜競走

- 1 萩原麻由子 群馬 鹿屋体育大 4:13.677
2 宮崎 杏菜 大分 鹿屋体育大 4:13.847
3 高倉 実希 岩手 早稲田大学 4:19.337
4 小淵 千恵 群馬 順天堂大学 4:25.476
5 石井 寛子 埼玉 明治大学 4:21.008
6 永田 萌子 大分 明治大学 4:21.880

女子ポイントレース(16km)

- 1 佃 咲江 北海道 北海学園北見大 24p
2 萩原麻由子 群馬 鹿屋体育大学 19p
3 松永 舞美 香川 法政大学 11p
4 石井 寛子 埼玉 明治大学 8p
5 宮崎 杏菜 大分 鹿屋体育大学 7p
6 沼部早紀子 栃木 順天堂大学 7p

女子ロードレース(71.6km)

- 1 萩原麻由子 群馬 鹿屋体育大 2:10:43
2 永田 萌子 大分 明治大学 2:15:10
3 石井 寛子 埼玉 明治大学 2:16:28
4 松永 舞美 香川 法政大学 2:16:33
5 佐藤紗矢香 北海道 北海道大学 2:16:34
6 岡 希美 群馬 法政大学 2:16:36
7 小淵 千恵 群馬 順天堂大学 2:16:38
8 佃 咲江 北海道 北見大学 2:16:40
9 森 智恵美 京都 順天堂大学 2:16:43
10 高倉 実希 岩手 早稲田大学 2:16:45

女子大学対抗得点

- 1 鹿屋体育大学 24p
2 北海学園北見大学 15p
3 明治大学 13p

競技大会結果

大会名、チーム名等については略して記載

MTBジャパンシリーズ DH#4

(2005/8/6-7 岐阜・白鳥ウイングビル)

DH Elite Men (1.9km)

- 1 丸山 弘起 長野 Canondale 2:56.673
2 井手川直樹 広島 G Cross 2:57.590
3 永田 隼也 神奈川 AYLE KAMI3:00.004
4 竹本 将史 埼玉 プリザースト 3:00.362
5 安達 靖 愛知 Ikuzawa 3:01.730
6 柴田 幸治 神奈川 A&F SANT. 3:02.258
7 小山 航 新潟 国際アトリア 3:03.989
8 内嶋 亮 東京 G-cross 3:04.867
9 丸山由紀夫 愛知 MOM&POP3:05.477
10 及川 功申 神奈川 GIANT J. 3:07.216

DH Elite Women (1.9km)

- 1 福本 弘佳 兵庫 輪娛ロード 4:00.257
2 飯塚 朋子 大阪 ROLL-OUT 4:10.458
3 末政 実緒 兵庫 かがみ 4:11.619
4 渡辺 かり 長野 CANNON. 4:13.506
5 富田 敬子 奈良 TECH IN 4:27.753
6 大西 雅美 兵庫 YRS-ANC 4:30.397
7 服部 良子 神奈川 風魔横浜 4:32.781
8 猪俣 浩子 神奈川 4:34.318
9 椿本百合子 兵庫 KOUT 4:52.479
10 堀田 直子 愛知 MOVE R. 6:29.669

第2回全日本実業団ケイリンロードレースin小川

(2005/8/21 長野・小川村)

BR-1 (76.7Km)

- 1 新保 光起 JPCA 愛三工業 2:37:27
2 盛 一大 愛知 愛三工業 2:38:01
3 阿部 良之 JPCA シルベック 2:40:17
4 箕 五郎 長野 日本アイト 2:40:46
5 二戸 康寛 東京 なるしまF. 2:41:52
6 西谷 雅史 東京 オペル光I-II 2:42:43
7 鈴木 謙一 和歌山 YOU CAN 2:43:33
8 西村 拓也 京都 ミタスII 2:44:12
9 山本 雅道 JPCA シルベック 2:44:22
10 行成 秀人 岡山 Z-1MEDAL. 2:44:27

BR-2 (60.4Km)

- 1 村山 利男 東京 Vitesse-仔加 2:12:47
2 岡崎 竜二 京都 京都大学 2:17:34
3 高橋 佳仁 東京 オペル光I-II 2:17:44
4 真鍋 英祐 山口 Sakatani R. 2:17:48
5 米倉 健二 三重 LEGNO Spo.2:17:48
6 野田 洋一 長野 スコロン 2:18:05
7 五百旗頭晃 東京 オペル光I-II 2:18:45
8 小嶋 智 愛知 チムGiro 2:18:57
9 久保田 元 栃木 川ノ又XTBC 2:19:09
10 三浦 重範 東京 なるしまF. 2:19:56

BR-3 (44.1Km)

- 1 下林 伸行 兵庫 クワシバ 1:37:10
2 奥田 瑛史 兵庫 クワシバ 1:38:35
3 高橋 純 岩手 ベルキップ 1:38:48
4 田端 伸行 千葉 BM SPACE 1:39:21
5 増田 威望 千葉 L.ottimo 1:39:30
6 高江洲昌太 東京 輪レーシング 1:39:36
7 高橋 聡一 大阪 シェルドン 1:39:41
8 加藤 孝啓 岐阜 BREZZART 1:39:48
9 山本 朋貴 滋賀 ストラダレーシング 1:40:02
10 神谷 知明 東京 GIANT/MET 1:40:18

女子(27.8Km)

- 1 真下 正美 神奈川 - 1:09:24
2 山口 亮子 愛知 かつCCD 1:13:09
3 西 加南子 千葉 ミタスII 1:14:43
4 小山美貴子 埼玉 ZELKOVA 1:16:12

ジュニア・ロード・イタリア遠征 日本代表選手団

大会名 ジロ・デルニジアーナ(UCI 2 HC.MJ)
 開催場所 イタリア・トスカーナ州・フィレンツェ市
 大会期間 2005年9月1日～4日
 派遣期間 2005年8月29日～9月6日
 派遣選手団 監督 山口 清孝(JCF選手強化委員・ジュニア強化育成部会会長)
 コーチ 大野 直志(JCFジュニア強化育成部会支援スタッフ)
 通訳・マネージャー 大門 宏(JCFロード競技部会役員)
 選手 我妻 敏(福島・学法石川)・伊藤 雅和(神奈川・法政二高)・寺垣慎太郎(富山・氷見高校)
 鶴川 大輝(香川・高松工芸)・伊丹 健治(群馬・前橋育英)・橋本 龍弘(福島・学法石川)

インフォメーション コーナー

千葉県自転車競技連盟 事務局住所の変更

新事務局 〒290-0151 千葉県市原市瀬又2107-1 石井様方 電話:090-3098-8188 FAX:043-291-0931

10月は「体力づくり強調月間」です。

10月10日は体育の日として、全国各地でスポーツに関するイベントも多く開催されていますが、10月1日から31日までの1ヶ月間は、「体力づくり強調月間」です。

国民の一人ひとりが健康や体力を養うことは、日常生活を豊かにするだけでなく、活力に満ちた明るい生活を営むための基盤となります。「体力づくり強調月間」は、健康や体力づくりに関するさまざまな行事や広報活動などを通じ、国民の健康・体力づくりに対する理解と自覚を深め、体力づくり実践活動の日常生活への定着を促進することを目的としています。これを機会に体力づくりのため、一層自転車に親しみましょう。

東京都自転車競技連盟からのお知らせ

東京車連が主催するJCF第3級公認審判員講習会(トラック・ロード)の受講者を募集しています。

受講料等お申込方法については、東京車連ホームページ <http://www.tokyo-cf.jp/> をご覧ください。

開催日時:平成17年10月1日(土)13:00～18:00 会場:東京都港区赤坂1-9-3 日本自転車会館 3号館4F

ジャパンカップ出場チームの情報 <http://www.japancup.gr.jp>

10月23日(日)に今年もジャパンカップサイクルロードレース(UCIアジアツアー1-1)が宇都宮市森林公園周回コースで開催されます。今年は、ナショナルチームクラス以上の下記17チームが参加する予定です。

イレスバレアレス・ケステパーニュ(スペイン)、クイックステップ・イネルジュティック(ベルギー)、ランプレ・カッフィータ(イタリア)、サウニエルデュバル・プロディール(スペイン)、シマノ・メモリーコープ(オランダ)、チームブリヂストン・アンカー(日本)、チームNIPPO(日本)、キナン・CCD(日本)、スミタ・ラパネロ・パールイズミ(日本)、ミヤタ・スバルレーシングチーム(日本)、ナショナルチーム 7チーム(日本ほか、アジア圏から)

国体の速報記録が見れます <http://www.pref.okayama.jp/kokutai/>

10月23日から27日まで、岡山県で行われる「晴れの国おかやま国体」自転車競技の記録がパソコンで見られます。

記録速報サイト <http://www.kirokukensaku.com/kokutai/>

携帯サイト <http://www.keitai.kyogikekka.com/kokutai/>

連盟の動き(8月中旬～9月中旬)

8月17日	第2回常務理事会・選手強化本部会	於:東京・連盟会議室
29日	ジュニアロードイタリア遠征日本代表選手団出発	於:イタリア・フィレンツェ(帰国 9/6日)
9月9日	第2回総務委員会	於:東京・連盟会議室
13日	第3回常務理事会・選手強化本部会	於:東京・連盟会議室



シクリスムエコー No.122 2005年9月号

発行/財団法人日本自転車競技連盟

発行人/岩橋昭一

編集人/加藤 昭

編集事務局/財団法人日本自転車競技連盟 事務局

〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-15 日本自転車会館内

TEL 03-3582-3713 FAX 03-5561-0508

URL <http://www.jcf.or.jp/>

JCF協賛スポンサー



森永製菓株式会社健康事業部



株式会社サテライトジャパン